

令和3年6月

むつみ愛i



六ツ美西陽小学校
校長室だより

『コミュニケーションツール』

ホームページ掲載用通信

先週、外国語活動の研究授業を行いました。6年3組の鰐淵先生の学級では、児童がペアを組み、「You can eat _ .」「You can see _ .」「You can buy _ .」の例文に各自がiPadを使って見つけた画像をテレビ画面に飛ばし、お気に入りのものを説明しながら、英会話を楽しみました。

わたしが中学校に勤務していた30数年前では信じられない授業です。ただ、ひたすらに英単語と文章を覚え、テスト対策や高校入試対策に明け暮れていた授業とは、似ても似つかぬ内容なのです。

今、教育現場では「対話的、主体的で深い学び」というキーワードのもと、授業が組み立てられています。

各教科には「教えなければいけない内容」が定められています。そして、これまでは如何に効率的に正しい解答を導き出すかに指導内容が特化されていました。それが、今は如何

に児童が主体的になって学びを深めていくかというところが特化された授業づくりが中心になりました。

極端に言えば、教師は「ティーチャー（教える人）」から「ファシリテ

ーター（道先案内人）」に仕事が様変わりしています。ここが、難しいところです。

これまで、学校の先生は、答えと答え方だけ分かっていたら、とりあえず授業ができました。しかし、今は「様々な答えの導き方を児童に見つけさせる手段」を獲得するために、何倍もの時間、勉強しなければならなくなりました。どちらかと言えば頭の固いタイプの多い「学校の先生」ですから、この変化に対応するために、結構、苦しんでいます。

6月11日に授業参観を見ていただくと良かったのですが、残念ながらそれも叶いません。ここ2、3年で様変わりしつつある「今時の授業」。2学期以降には、多くの保護者の皆様に、ご覧いただければ幸いです。

